

チョウゲンボウ（ハヤブサ科） 全長 35 センチ

チョウゲンボウが今年も美郷町で子育てを始めました。

美郷町の中央行政センター（旧役場庁舎）では、4年ほど前から営巣を続けてきましたが、今年は4月27日に確認されています。チョウゲンボウは断崖の横穴や岩棚、樹洞などに営巣するが、近年市街地でもよく見かけるようになりました。獲物となる小鳥が豊富なこと、天敵が少ないこと、ビルなどの構造物が断崖の代わりになっていることが理由とされています。



オスがいつもの煙突てっぺんで見張っていた。

今年も、3階外壁の隙間を利用したの営巣です。3羽のヒナが育っていました。

5月24日、2羽のヒナが巣立ち、もう1羽は巣の中で巣立ちを待っています。メス親はいつも巣の近くからヒナを見守っています。

遠くからオス親が獲物を運んでくると、ピッピッ、ピーッと鳴きながら飛び立ち、空中で獲物を受け取りました。翌日には3羽目も巣立ち、外壁の横板でピーピーと鳴きながら親にエサの催促をしています。



オスから受け取った獲物はネズミでしょうか。



大きな口を開けて餌をもらっている。

今頃は親の後を追いかけて、狩りの訓練に励んでいることでしょう。



3羽のヒナが確認されましたが、左のヒナはまだ小さく第3子でしょうか。



元気に巣立ったヒナの体には、まだ綿毛が残っています。